

令和2年1月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

伊豆漁協青壮年部田牛支部が青年・女性漁業者交流大会で県知事賞を受賞

12月6日に静岡市で開催された第25回静岡県青年・女性漁業者交流大会で、伊豆漁業協同組合青壮年部田牛支部田牛支部の「未来に煌めけ！田牛の海-つなげよう技術と資源-」が県知事賞を受賞しました。田牛（とうじ）地区は、古くから潜水器によるアワビ漁が行われてきた“潜りの村”で、かつて厳しい資源管理により10トン程度の漁獲を維持していました。しかし近年は度重なる磯焼けや漁業者の高齢化により、漁獲量が減少しています。青壮年部では、次の世代に漁業を継承していくためには、資源管理などによる資源を維持や磯焼けの回復が必要であることや、青年部が技術を伝え人材を育てていくこと、子供に安心して漁業を継がせるために強固な経営基盤を維持していくことが必要と発表しました。このような取り組みが評価され、田牛支部は



↑発表者の渡辺忠相さん（中央）と菊池宏之田牛支部長（左）、水産振興課長（右）

大井川港漁協とともに、3月に東京で開催される全国大会に推薦されました。

種苗生産の初期餌料「ワムシ」

ワムシとはシオミズツボワムシの略称で、動物プランクトンの一種です。自然界では、塩分が含まれる汽水湖等に生息していますが、その繁殖力の強さから、1960年代に海水馴致され、海産魚の初期餌料として導入されました。導入当初はワムシを給餌した魚に形態

異常や大量死亡が多発しましたが、その後、ワムシ培養用の飼料や培養方法が改善され、問題は解決し、培養の安定性と効率性が向上した現在では、種苗生産に必要な不可欠なものになっています。

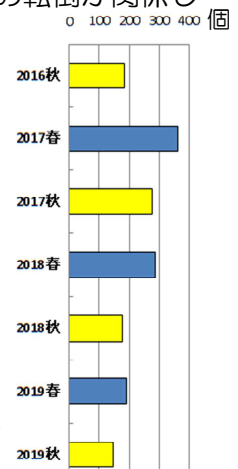
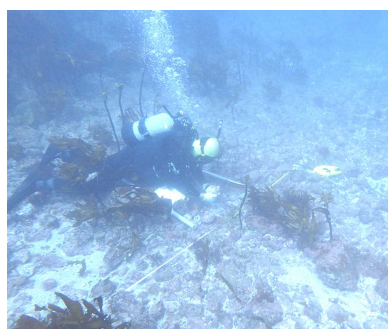
ワムシの形態（胴体→の下にあるのは卵）



解説：シオミズツボワムシは形態的な特徴から、SS、S、L型の3つに大別される。壺型の胴体に、後方に尾部を持ち、頭にある繊毛を使って遊泳する。

台風でアワビは減る？-潜水調査から

当场では、年に2回、白浜地先でアワビ類の生息密度調査を行っています。今年の秋の調査は12月に行いました。ある定められた範囲のメガイアワビやトコブシを計数し、大きさを測ります。これまでの調査で近年春から秋の間に大きく減耗することが分かってきました(下図参照)。これには、大型化した台風の高波浪・うねりによる石の転倒が関係していると考えられます。



調査ごとのメガイアワビの生息数の推移（春から秋にかけて生息数：横軸が減少する）

1月の予定 ● 10日に網代漁業(定置網)がふじのくに未来を拓く農林漁業奨励賞で表彰されます。 ● 1～6月までの定置網の漁況予測を発表します。 ● フェリーを利用した西伊豆産水産物の静岡地区への試験流通を実施します。 ● 稲取でテングサ藻場維持のための雑藻刈が行われます。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。